もも・ネクタリン情報　No.1

令和7年3月10日発行
JAグリーン長野営農販売部・経済部

長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況について

1. JA管内　川中島白桃

	発芽	開花	満開	落花
平年	3／25	4／13	4／20	4／28
令和6年	3／31	4／12	4／18	4／25
令和5年	3／14	4／ 2	4／ 9	4／15

◆当面する重点作業について

1. 剪定の見直し、枝片付け、誘引を実施する。
2. 日焼け防止対策を実施する。
3. 結実の良い品種から、摘蕾を計画的に実施する。
4. 発芽前（3月中旬）の薬剤防除実施が、遅れないよう注意する。

◆発芽期のかん水について

開花、結実、幼果肥大のエネルギー源は、貯蔵栄養(散布液肥)と土壌水分。
成葉のない春先は、細根のそばに水が十分にないと吸われない。
また、春先に干ばつになると、ほう素欠乏が発生し、発芽が遅れ、葉が細長くなり、小さく、葉脈間にクロロシスが発生する。花は開花せず落蕾するか、開花しても結実しない。

1. 3月：干天が30日程度続いたら、15㎜程度のかん水を実施する。
2. 4月：干天が15日程度続いたら、30㎜程度のかん水を実施する。
※10aに１㎜のかん水には、水1,000ℓが必要です。

【もも・ネクタリン薬剤防除】

◆第１回薬剤散布について

1.散布時期：3月14日（金）～3月20日（木）　　散布日　　月　　日

2.調 合 量：水88ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
スプレーオイル	2ℓ	ウメシロカイガラムシ	発芽前
石灰硫黄合剤	10ℓ	越冬病害虫・縮葉病	発芽前

3. 散 布 量：10a当り＝350ℓ以上
4. 留意事項
①自園の生育状況をよく確認し、農薬登録、薬害（枝枯れ等）対策上、必ず発芽前に実施する。
発芽してしまうと、薬害発生や縮葉病への効果が劣る。
上記の散布時期にとらわれず、生育が早まる場合は、早めに実施する。
②温暖無風を選び、アスパラガス等他作物・他品目に薬液が掛からないように十分注意する。（特に収穫期の作物が近くにある場合は、散布前に隣接園へ声をかける等、対策を講じる）
③薬害（枝枯れ）対策として、低温時（朝・夕・一日低温等）には実施しない。
水分が凍り、マシン油乳剤（スプレーオイル）の成分のみが残り、薬害につながる。
散布時期を逸した場合は、本年のマシン油乳剤は、実施を見送る。
④石灰硫黄合剤が結晶化してしまった場合、容器ごとぬるま湯に付けると溶ける。

⑤薬剤調合は、沢山の水で先にスプレーオイルを溶かし、石灰硫黄合剤を加用、丁寧に撹拌しながら散布する。

⑥ウメシロカイガラムシの発生が多かった園は、散布時期が遅れないように注意しス、プレーオイルを必ず散布する。（ウメシロカイガラムシは、石灰硫黄合剤との混用でより効果が高まる）

近年、カイガラムシ類は夏季の高温により増加傾向で、被害が果実まで拡がった。今回はもっとも重要な薬剤防除となる。樹冠内部、主幹部の上から下まで、しっかりと薬剤を掛ける事が重要です。

⑦スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル 50 倍（水 88ℓ当り 2ℓ）を使用してもよい。

⑧石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブル 500 倍（水 98ℓ当り 200mℓ）を使用してもよい。

◆せん孔病対策の特別散布について

せん孔細菌病の発生が心配され、開花直前散布まで期間が長くなる場合に特別散布する。

1.散布時期：3月末頃～4月初旬頃　　散布日　　月　　日

2.調 合 量：水100ℓ 当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66mℓ	―	―
ＩＣボルドー４１２	3kg	せん孔細菌病	―

3. 散 布 量：10a当り＝350ℓ以上

4. 留意事項

①散布直後に降雨にあうと、薬害発生、効果低減になる。

②薬液調合後、沈殿を始めない間（調合後6時間以内）に散布する。

③ももは、icボルドー412に代えて4―12式ボルドー液（水 100ℓ 当り生石灰 1,200g＋㊞硫酸銅 400g）を使用してもよい。ネクタリンは登録がない、4―12式ボルドー液並びにicボルドー66Dは使用できない。

④住宅・駐車場の近くで汚れを心配される場合は、ボルドーに代えて、ムッシュボルドーDF500 倍（水 100ℓ 当り 200g）を散布してもよい。

⑤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍（水 100ℓ 当り 33mℓ）を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、ボルドー液調合後に混用する（凝固するため）

◆摘蕾の実施について 《重要作業》

1. 摘蕾のねらい

1）晩霜があるから摘蕾しないでは、適玉・高糖度のモモは取れない！

・貯蔵養分の無駄な消耗を防ぎ、幼果の肥大・新梢の伸長・細根の発達を助けて葉枚数を早く確保する。

・生育成熟期間の短い、早・中生種ほど恩恵が大きく出る。特にあかつき、白鳳、なつっこ。

2）摘果作業の効率化を図り、生理障害(核割れ・落果)の軽減をするため、重要作業。

・鈴なりの果実を一度に摘果して落とすと、生理障害の原因になるが、摘蕾では、影響が少ない。

・摘蕾⇒（花摘み）⇒予備摘果⇒仕上摘果⇒見直摘果と、順々に落とす。

2. 実施時期

1）早い⇒効果高い・作業性悪い　　遅い⇒効果低い・作業性良い・葉芽を傷めやすい。

2）花蕾が丸く膨らみ、先端にピンク色の花弁が僅かに見え始めるころから開花までに行う。

3）早くから実施すると、作業効率は低下するが効果は高い。

【表1】 摘蕾程度の目安

	強 ⇒ 弱			強 ⇒ 弱	
樹齢	老木	若木	せん定の程度	弱	強
樹勢	弱	強	核割れ・変形・生理落花	少	多
花粉量	多	少	施肥量	少	多
結果性	良	不良	凍霜害の危険性	少	大

3. 実施方法

1）葉芽をきずつけないように薄い手袋をはめて行う。

2）長・中果枝は、片方の手で枝の先端をつまみ、他の手で先端から基部に向けて、蕾をこすり落とす。

3）親指と人差し指で軽く挟んで、上下の蕾をしごいてもよい。
短果枝は指先で枝をもむようにし、落とす。

4. 品種別摘蕾の程度

結実が確保できる場合は、初期成育向上、玉肥大向上、核障害低減を目的とし基準より、「強い摘蕾」を実施してよい。

1）樹勢の判断は、長果枝の割合が20％を越えるもの及び、徒長枝の切り口が目立つものは強いと判断する。川中島白桃はある程度落として、人工受粉を徹底する。

2）全蕾の70～80％落としてよい品種…白鳳系・あかつき・なつっこ

3）50～60％落としてよい品種…白根白桃・水野ネクタリン

4）軽く落とす品種（毎年結実が安定している場合は、多めにおとしてよい）
…川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃・スイートリッチ
サマークリスタル・メイグランド・スイートクリスタル・フレーバートップ・ファンタジア・秀峰

5. 実施上の留意事項

1）人工受粉用に採花する場合は、摘蕾の程度を軽くして残しておく。

2）若木は樹形作りを第一に考え、主枝・亜主枝の先端部の蕾は全部落とす。特に主枝・亜主枝の延長枝は、側枝の先端も摘蕾し、垂れ下がり防止に努める。

3）長果枝の基部15㎝間の直上芽は、同時に芽かき(芽こき)して徒長枝の発生を未然に防止する。

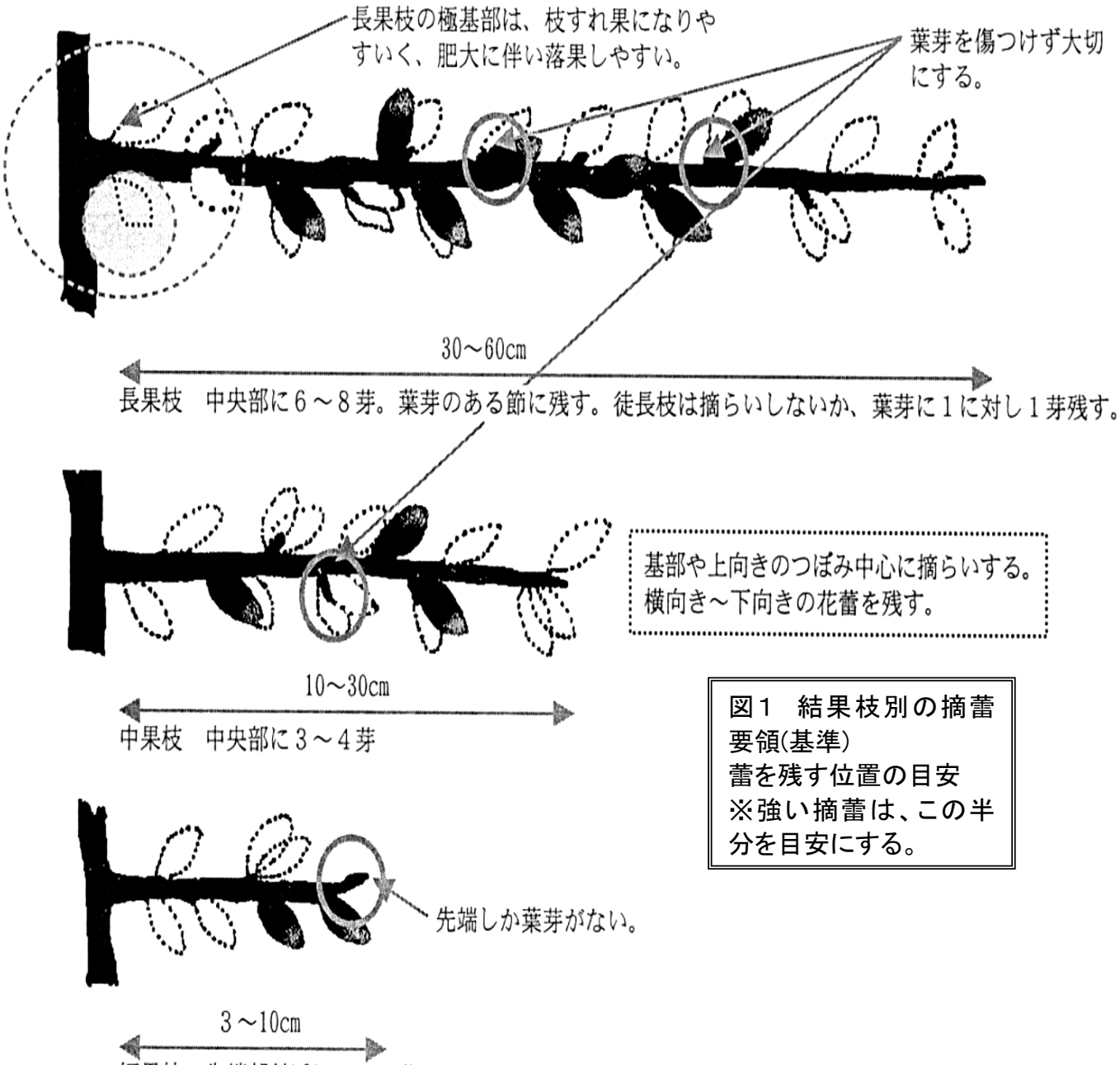

図１　結果枝別の摘蕾要領(基準)
蕾を残す位置の目安
※強い摘蕾は、この半分を目安にする。

図　　結果枝別の摘らいの程度（岡沢原図　平22）